

▲ 樹里安だより

ジュリアン

2013年
Vol.33



住宅街に囲まれた現在の寺は、昭和63年（1988年）に再興されたもので、創建当時の寺は広い境内に本堂・鐘楼などの諸堂が立ち並んだうえ、数か所に末寺と広大な寺領を持ち、武蔵国では高い格式を誇っていた。

同寺は、関東郡代伊奈半左エ門忠次が、赤山の地にあった古寺を再興して伊奈家の菩提寺として創建した。伊奈氏は関八州の貢税、水利、戸籍を掌握し、用水路の開削、原野の開墾に力をそそいで功績をあげた。

だが、寛政4年（1792年）伊奈忠尊が家督相続の問題で退陣を余儀なくされ、所領も没収されたことから経済的にも行き詰まり、それにつれて同寺の衰退が始まり、鐘楼堂などの諸堂、寺宝や寺領を次々と失い、昭和に入ってからには寺としての外観体裁もない有様だったという。

新しい寺は、昭和13年（1938年）24代住職に就いた廣譽定海によって建立された。定海は戦後になってから僅かに残された寺領を墓地造成して分譲するとともに檀家を募って資金を集め、本堂・庫裡などを新築、同63年5月完成法要を行い再興を果たした。

新しい寺が完成後、伊奈氏の子孫で御殿場市の伊奈神社の氏子たちが2年ごとに先祖の慰霊に訪れている。同寺でも、この地の発展に寄与した伊奈氏の功績を広めるため年に1回ずつ、供養の集いを開く考えだ。

源左衛門新田の

イヌツゲ

(川口市源左衛門新田)

長い年月、風雨に耐えて生き抜いてきたためか、幹の所どころに大きなこぶが出来てゴツゴツと膨らみ、痛みから亀裂や空洞が生じるほど痛々しいが、それでも大地にどっしりと根を下ろしている。早船家の保存樹木イヌツゲの姿だ。

イヌツゲは、モチノキ科の常緑小高木で高さ3～5m。自然樹形のもの少なく、刈込みや成形に耐えるので、生け垣、トピアリー、玉ちらしなどに成形され庭木としての利用度が高い。早船家の木は昭和59年11月、市の指定を受けた保存樹木で、胴回り1.4m、樹高4.4mほどある玉ちらしの樹形だ。

早船家は、同所に多い早船を姓とする一族の本家とされており、子孫が初めてこの地に入植したといわれる。正保年間(1644～48)の記録書には、戸数11戸ですべて畑地。干ばつになることが多いので柿の渋を採って江戸へ売ったと記されている。今では700戸を超える集落となったが、地名は最初の入植者、早船源左衛門の名がそのまま使われたという。

本家の早船家は、高さ10m以上もあるシラカシ、スダジイなどの屋敷林に囲まれ、昔の農家の原風景をそのまま描き出しているが、イヌツゲはその前庭の玄関左側に鑑賞木として、植わっている。周囲の樹木との比較から樹齢は500年は下らないというのが一族の長老たちの見方だ。

15年ほど前、木が弱りかけたので、樹木医に診てもらった。手当てした樹木医は「樹形を整えるためのせん定や、新葉を葉虫や毛虫に食い荒らされること、老化現象など様々な理由がある。それに、かなり古い木なので樹勢の回復は難しい」と、首をかしげていたそう。当主の早船さんは、「子どものころ登ったり降りたりした遊び相手の木を枯らすわけにはいかない。せん定をやめ、葉の消毒が最善の治療方法らしいので、これからは新葉を守る消毒をしっかり行い、大切に守っていききたい」と話している。



※こちらの保存樹木は一般公開いたしておりません。



イヌツゲ モチノキ科

(別名：ヤマツゲ 学名：Ilex crenata)

- 分布 日本のほぼ全域に分布する
- 樹高 3m～5m
- 用途 庭木、生垣等
- 常緑の広葉小高木
- 長さ1cm～3cm、幅1cm前後の細かな葉が密生し、枝は分岐が比較的多い
- 5月～6月頃、あまり目立たないが、約5mmの緑白色の花が咲き、10月～11月頃に5mm～8mm程の黒紫色に熟した、果実がつく
- 萌芽力が旺盛であり、多種多様な刈込み、成形に耐えることから、玉ちらし等の人工的な樹形を目にすることが多い
- 陰樹だが陽地にも耐え、大気汚染に対する抵抗性も高く、移植後の土地に対する適応性も高い



源左衛門新田のイヌツゲ

樹種	科名	指定年月日	指定番号	所在地	幹周	樹高
イヌツゲ	モチノキ科	S59.11.1	124	川口市源左衛門新田	1.4m	4.4m



《黒い種子が役立ったムクロジ》

山に生える木、里に植栽されている木、どんな木でも人間の生活に役立たない木はない。建材、観賞、あるいは果実など、それぞれの役目を持ち人間生活を支えてくれる。それでは「ムクロジという木は何の役に立っているのかな？」の問いには、現代人の大半は答えられないだろう。実は、ひと昔まえまで正月の羽根つきの球や、また数珠に用いられ、果実の外皮は石鹸の代用に使われていた木だ。

ムクロジは、本州中南部、四国、九州の山地に生えるムクロジ科の落葉高木。成長すると一般的には、高さ約15m、胴回り1～1.5mとなる。埼玉県には胴回りが3m近い大木もある。花は6～7月、枝先に大きな円錐花序をつけ、淡緑色の小花を多数咲かせる。果実は、11月ごろ完熟して黄色または黄褐色となる。果皮は円形で、その中に黒い種子1個を含んでいる。直径

12mmほどの丸い種子はとても堅質で、この種子が羽根つきの球に使われるわけだ。

数珠としても利用され、僧侶たちは好んで念珠に用いたとも伝えられている。また、果皮にはサポニンを含んでいるので、これを煎汁にして石鹸代わりに使用したが、子供たちは果皮を水でつぶしてシャボン玉のようにふくらませて遊んでいたという。

ある古老は「昔は庭が広かったり、屋敷林をもつ農家が多かったので、ムクロジもたくさん植えられていたようだ。祖父の時代、秋になると種子を集めに来る業者もあり、子供のころ種子拾いを手伝ってやった記憶がある。今は羽根つきの球の需要が減ったうえ、種子に代わって合成樹脂が使われるようになったので、用無しとなったね。それに広い庭を持つ家も少なくなったので、この木自体が見かけられなくなってきた」と話している。



だが、この木の役目が終わったわけではない。すっきりした傘状の樹形や秋の黄葉が見事なことから景観木として重宝がられている。主に神社や寺院などに多く植栽され、建築物との取り合わせで建築物本体を引き立たせる脇役の役割を果たしながら、今もなお景観木として天高くそびえ立っている。

ムクロジは、無患子、無患樹とも書かれ、俳句では秋の季語として、よく詠まれている。

無患樹の実も葉も垂れて曇りゐり（北野登＝俳句歳時記より）



【2012年フェンロー国際園芸博覧会・フロリアード2012】

国際園芸博覧会フロリアードは、10年に一度オランダで開催される世界最大規模の園芸博覧会で、昨年オランダのフェンロー市で4月5日～10月7日までの186日間にわたり、世界42カ国が参加し、述べ204万人が来場いたしました。

川口市としては、若手農業者を中心とした実行委員会を組織して、4度目となる出展を果たし、安行の植木を中心とした樹木類を使用した日本庭園を屋外に制作・展示するとともに、ゴヨウマツをはじめとする4点の盆栽を品種コンテストに出品いたしました。

日本庭園は期間中各国からの来場者で賑わい、また品種コンテストでは、ゴヨウマツが9.6点の好成績を収め、今回の出展を通じて、広く世界に本市の園芸・造園技術の高さと安行ブランドの植木を広くPRいたしました。





記念樹にふさわしい木とそのいわれ

故人をしのぶ

カエデ

(カエデ科 カエデ属)

(落葉広葉樹・小高木～高木・中庸樹)



カエデ（モミジ）は、春の芽出し、秋の紅葉、冬の影こまやかなこずえなど、四季を通じて美しい。わが国の代表的な樹木で、愛好者も極めて多い。日本庭園、社寺、個人の庭などによく植えられる。亡くなった人が生前に愛したカエデの、四季折々のうつろいにその面影をしのぶ。また、命日などに植樹して、亡き人の思い出としたい。

1. 特徴

開花期4～5月、結実期9～10月。原種のイロハモミジ（タカオカエデ）、オオモミジ、ハウチワカエデなどが代表で、園芸種も多い。

2. 植えるときの注意

時期 2月・10～12月

場所 日なたで排水がよく、やや湿り気のあるところがよい

3. 管理のポイント

アブラムシ、カミキリムシがよくつくので、成虫を駆除する。せん定は、落葉期の樹液が動き出す前の春先に行う。

他の木



ハギ

落葉広葉樹
低木・陽樹



サザンカ

常緑広葉樹
小高木・中庸樹



ジンチョウゲ

常緑広葉樹
低木・中庸樹・雌雄異株



キンモクセイ

常緑広葉樹
小高木・中庸樹・雌雄異株

参考：日本緑化センター 木を植えよう 記念樹にふさわしい木とそのいわれ



川口緑化センターの主なイベント開催結果報告

1 第74回秋の安行花植木まつり

平成24年10月6日(金)～8(日)

恒例の秋の安行花植木まつりを「川口緑化センター」「埼玉県花と緑の振興センター」「市営植物取引センター」の計3会場で開催いたしました。昨年度の大盆栽展に引き続き、今年度も銘品盆栽23点を展示し、また関連事業として親子盆栽体験教室、盆栽相談会等も実施されました。会期中は「戸塚安行駅」から無料シャトルバスも運行され、期間中多くの方が来場いたしました。



2 刈払機安全衛生教育講習会

平成24年12月1日(土)

造園業の資質の向上と労働災害の防止を目的に労働安全衛生法に基づく、刈払機の安全衛生教育講習会を開催いたしました。当日は造園業者を始め、多くの方が参加され大変好評を博しました。



3 自分でできる松枯れの診断と対策研修会

平成25年1月22日(火)

今年度、県内各地から松枯れの問い合わせが増加していることから、松枯れ病の診断と対策についての研修会を「埼玉県花と緑の振興センター」と共催で開催いたしました。当日は多くの関係者が参加いたしました。



4 第10回緑の学会・ふれあい講演会

平成25年1月26日(土)

毎年農業・緑化・環境に造詣の深い著名人に講演をいただく緑の学会に、今年はフォークシンガー・白鷗大学教授の山本コウタロー氏に講師としてお越しいただきました。

『ぼくのエコロジーライフ～植木の里「安行」で考えよう、緑の大切さ～』をテーマにご講演をいただき、多くの参加者へ緑化の普及・啓発を図りました。





神話・伝説の花と植物

(その1)

花にまつわる神話・伝説は、目に見えない超自然的な霊物への畏敬の念から生まれたものである。神々は非常に人間的で喜怒哀楽を持っているというが、人間がおよびもつかない力と美しさがある。その神々への親しみとあこがれは美しい花や植物と重ね合わされ、語りつがれてきた。

【アポロンの木・ゲッケイジュ】

アポロンは神々の中で最も美しく、また豎琴の名手で芸術の守護者とされてきた。ある日、森の中でニンフのダフネを見て彼女の美しさにひかれて追いかけた。追いつめられたダフネが父親に助けを求めると、1本のゲッケイジュに変えられてしまった。しかし、あきらめきれぬアポロンは彼女の黄金の巻き毛（ゲッケイジュの葉）で編んだ冠を作り、詩や歌のわざで勝利したものに与えよと命じたという。これが後に月桂冠として優れたものを讃えるシンボルとなった。

【恋のお守り・シクラメン】

現存する世界最古の本草書であるディオコリデスの薬種書（1世紀）にも、シクラメンの根は通経に利き、妊婦が身につけていると安産すると記されている。西洋では昔から魔力を封じる力があると信じられてきたが、16世紀ごろには惚れ薬や恋のお守りにもなった。その根をお菓子に混ぜて好きな相手に食べさせると、恋は成就するというわけである。

【美少年の血から生まれたアネモネ】

美少年アドニスとビーナスの仲を嫉んだペルセポネーは、イノシシをけしかけてアドニスを殺した。その傷口から血の色の花が咲き出し、風を開き、そして風に散った。この花をアネモネ（ギリシア語で風の花）と呼んで美少年の死を悼んだ。



ジュリアン

樹里安

川口緑化センター・道の駅「川口・あんぎょう」

発行日：平成25年3月1日

発行：公益財団法人 川口緑化センター

〒334-0058 川口市安行領家844-2

TEL.048-296-4021

ホームページ：http://www.jurian.or.jp/